

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-90652

(P2016-90652A)

(43) 公開日 平成28年5月23日(2016.5.23)

|              |             |                  |             |             |             |              |
|--------------|-------------|------------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| (51) Int.Cl. |             | F 1              |             |             |             | テーマコード (参考)  |
| <b>G09F</b>  | <b>9/00</b> | <b>(2006.01)</b> | <b>G09F</b> | <b>9/00</b> | <b>351</b>  | <b>5G435</b> |
| <b>H04N</b>  | <b>5/64</b> | <b>(2006.01)</b> | <b>H04N</b> | <b>5/64</b> | <b>581A</b> |              |

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 11 頁)

|           |                              |          |                      |
|-----------|------------------------------|----------|----------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2014-221492 (P2014-221492) | (71) 出願人 | 000000561            |
| (22) 出願日  | 平成26年10月30日 (2014.10.30)     |          | 株式会社岡村製作所            |
|           |                              |          | 神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号  |
|           |                              | (74) 代理人 | 100064908            |
|           |                              |          | 弁理士 志賀 正武            |
|           |                              | (74) 代理人 | 100094400            |
|           |                              |          | 弁理士 鈴木 三義            |
|           |                              | (74) 代理人 | 100149548            |
|           |                              |          | 弁理士 松沼 泰史            |
|           |                              | (72) 発明者 | 土山 和功                |
|           |                              |          | 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号  |
|           |                              |          | 株式会社岡村製作所内           |
|           |                              | Fターム(参考) | 5G435 AA01 AA06 EE50 |

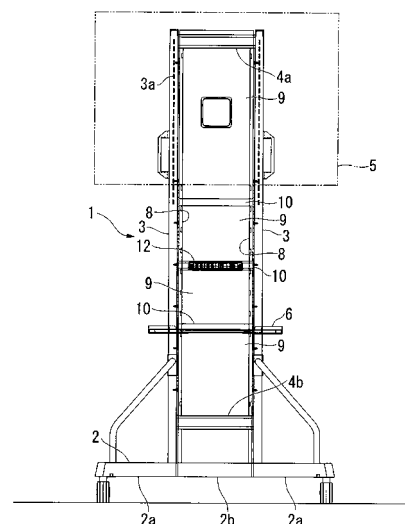
(54) 【発明の名称】 ディスプレイ支持什器

(57) 【要約】

【課題】 ディスプレイの配線との接続が容易で使い勝手が良く外観上の見栄えが良い。

【解決手段】 ディスプレイスタンド1は、脚体2から上方に立設された一対の支柱3と、支柱3の内面に固定された補助支柱8とを有する。支柱3の上部にブラケットを介してディスプレイ5を取り付けた。補助支柱8の第二スリットに閉塞パネル9を上下方向に複数取り付け、前面と裏面の閉塞パネル9の間に配線挿通空間を形成した。上下の閉塞パネル9の間に配線挿通空間に連通する開口部10を設けた。ディスプレイ5の下方位置の開口部10にコンセントユニット12を取り付け、コンセントユニット12はブラケットの係止爪部を補助支柱8の係止孔に取り付けた。コンセントユニット12は支柱3及び補助支柱8の前面から前方に突出して形成した。コンセントユニット12の下側に柵板6を取り付けた。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

基部から上方に立設された支持部材を備えた什器本体の前面にディスプレイを取り付けてなるディスプレイ支持什器であって、

前記ディスプレイの下方位置においてコンセントユニットを前記支持部材に取り付け、前記コンセントユニットは前記支持部材の前面から前方に突出していることを特徴とするディスプレイ支持什器。

**【請求項 2】**

前記支持部材の対向する前面と裏面にパネル体がそれぞれ取り付けられ、前記前面と裏面のパネル体の間に配線を挿通させる配線挿通空間が設置されている請求項 1 に記載されたディスプレイ支持什器。

10

**【請求項 3】**

上下の前記パネル体の間には前記配線挿通空間に連通する開口部が設けられ、前記開口部に前記コンセントユニットが設置されている請求項 2 に記載されたディスプレイ支持什器。

**【請求項 4】**

前記支持部材には、上下方向に所定間隔を開けて複数の係止孔が形成され、前記コンセントユニットには前記係止孔に係合可能な係止爪が設けられている請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載されたディスプレイ支持什器。

20

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、オフィスや公共施設等の執務室や会議室等で使用されるディスプレイ支持什器に関する。

**【背景技術】****【0002】**

一般にオフィスや公共施設等の集会室や執務室や会議室等においては、ディスプレイを所定の高さに支持するためのディスプレイ支持什器が多く用いられている。こうしたディスプレイ支持什器は、特許文献 1 に記載されたように、床面に載置された脚体と、脚体の中央から上方に立設された支柱等の基体部とで什器本体を構成し、什器本体の上方の前面に支持金具を介してディスプレイを取り付けている。そのため、出席者や執務者が見やすい高さ位置にディスプレイを安定的かつ強固に支持できる。

30

**【0003】**

また、このようなディスプレイ支持什器は、デスクやテーブル等の天板を基体部に設置してパソコンやリモートコントローラ等の電子機器を載置し、ディスプレイと組み合わせて使用するものが多い。そのため、特許文献 2, 3, 4 等により、天板で使用する電子機器とディスプレイを接続するケーブルや、ディスプレイや電子機器に電力を供給する電源ケーブル等をディスプレイ支持什器の基体部内に収容して外観上の見栄えをよくしている。

40

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特許第 4 5 6 4 3 9 1 号公報

【特許文献 2】特許第 4 2 5 0 2 9 5 号公報

【特許文献 3】特開 2 0 1 0 - 1 0 7 7 4 5 号公報

【特許文献 4】特開 2 0 1 0 - 1 0 7 7 4 6 号公報

**【発明の概要】****【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

50

しかしながら、特許文献 2, 3, 4 に記載されたディスプレイ支持什器では、基体部内に配線を収容する機能を有しているにすぎないため、別途電源を供給するコンセントを設ける必要がある場合には、テーブルタップを床面等に設ける必要があり、配線時の使い勝手や外観上の見栄えが悪いという問題を有していた。

また、ディスプレイ支持什器の配線収容部はディスプレイの下方位置に設けているため、ディスプレイの取り付け状態における配線設置の作業性が非常に悪いという問題も有していた。

#### 【0006】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたもので、ディスプレイの配線との接続が容易で使い勝手が良く、しかも外観上の見栄えが良好なディスプレイ支持什器を提供することを目的とする。

#### 【課題を解決するための手段】

#### 【0007】

本発明によるディスプレイ支持什器は、基部から上方に立設された支持部材を備えた什器本体の前面にディスプレイを取り付けてなるディスプレイ支持什器であって、ディスプレイの下方位置においてコンセントユニットを支持部材に取り付け、コンセントユニットは支持部材の前面から前方に突出していることを特徴とする。

本発明によるディスプレイ支持什器によれば、ディスプレイの下方位置に什器本体の前面から前方に突出するコンセントユニットを取り付けたため、ディスプレイの下方位置にあってもディスプレイの陰になったり装着の邪魔になったりすることがなく、ディスプレイ等の各種配線をコンセント及び／またはコネクタ等の差込口を備えたコンセントユニットに容易に接続できる。

#### 【0008】

また、支持部材の対向する前面と裏面にパネル体がそれぞれ取り付けられ、前面と裏面のパネル体の間に配線を挿通させる配線挿通空間が設置されていることが好ましい。

前面と裏面のパネル体の間に配線挿通空間を形成したことで、コンセントユニットやディスプレイの配線を配線挿通空間に収納することができ、各種の配線の収納作業が容易である上に配線が外部に露出することを抑えられて外観上の見栄えがよい。

#### 【0009】

また、上下のパネル体の間には配線挿通空間に連通する開口部が設けられ、開口部にコンセントユニットが設置されていることが好ましい。

配線挿通空間に連通する上下のパネル体間の開口部にコンセントユニットを取り付けることで、コンセントユニットの配線を開口部を通して前面側から配線挿通空間内に納めることができ、またディスプレイの配線も前面側から開口部を通して配線挿通空間に収納することができるため、各種の配線の収納作業が容易である上に配線が外部に露出することを抑えられて外観上の見栄えがよい。

#### 【0010】

また、支持部材には、上下方向に所定間隔を開けて複数の係止孔が形成され、コンセントユニットには係止孔に係合可能な係止爪が設けられていてもよい。

簡単な構成でありながらコンセントユニットの係止爪を確実に支持部材の係止孔に取り付けて什器本体に支持することができると共に、任意の係止孔に取り付けることでコンセントの高さの変更を容易に行うことができる。

#### 【発明の効果】

#### 【0011】

本発明に係るディスプレイ支持什器によれば、ディスプレイの下方位置に什器本体の前面から前方に突出するコンセントユニットを取り付けたため、ディスプレイ等の配線をコンセントユニットに接続することが容易であり、ディスプレイに邪魔されることなく接続できる。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0012】

10

20

30

40

50

【図 1】本発明の実施形態によるディスプレイスタンドの正面図である。

【図 2】図 1 に示すディスプレイスタンドの側面図である。

【図 3】ディスプレイスタンドからディスプレイとコンセントユニットと柵板を取り外した支持スタンドと、閉塞パネルを分離した正面図である。

【図 4】図 3 に示す支持スタンドの側面図である。

【図 5】支柱へのコンセントユニットの取り付け構造を水平断面で示すディスプレイスタンドの要部平面図である。

【図 6】図 5 に示す支柱へのコンセントユニットの取り付け構造を示す部分拡大断面図である。

【図 7】図 1 に示すディスプレイスタンドの閉塞パネル間の開口部にコンセントユニットを設置した構成を示す要部拡大図である。

10

【図 8】コンセントユニットを示すものであり、(a) は平面図、(b) は正面図である。

【図 9】コンセントユニットを補助支柱に取り付けた状態を示す部分縦断面図である。

【図 10】第一変形例によるコンセントユニットの補助支柱への取り付け構造を示す説明図である。

【図 11】第二変形例によるコンセントユニットの補助支柱への取り付け構造を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0013】

20

以下、本発明の実施形態によるディスプレイスタンド 1 を、図 1 から図 9 を参照して説明する。

本実施形態によるディスプレイスタンド 1 は、オフィスや公共施設の執務室や会議室等で用いられるものである。図 1 から図 5 に示すディスプレイスタンド 1 において、床面上に設置される脚体 2 の上部には一対の支柱 3 が上方に向かって平行に配設されており、支柱 3 の上部と下部には梁部 4 a、4 b が連結されている。支柱 3 は例えば断面角筒状に形成されており、その上部にはディスプレイ 5 が取り付けられ、その下方には柵板 6 が取り付けられている。

なお、本実施形態によるディスプレイスタンド 1 において、図 1 及び図 2 に示すディスプレイ 5 を取り付ける側の面を前面または表面といい、これに対向する側の面を裏面というものとする。

30

【0014】

図 1 及び図 5 に示す脚体 2 は、例えば略 V 字状に湾曲形成された一対の脚部材 2 a が連結部材 2 b によって連結されており、各脚部材 2 a に支柱 3 がそれぞれ立設されている。各脚部材 2 a の端部下端には車輪が設置され、支柱 3 の裏面側下端の脚体 2 上に配線収容箱が設けられている。

また、図 3 において、対向する一対の支柱 3 の前面（及び対向する裏面）にはディスプレイ 5 を取り付けるための係止孔として第一スリット 3 a がその上部に所定間隔で上下方向に配設されている。ディスプレイ 5 の裏面側に設けたブラケット 7 には第一スリット 3 a に取り付けするための係止爪部 7 a が設けられている。

40

一対の支柱 3 の内面には、図 3 及び図 6 に示すように、断面コの字状の補助支柱 8 がねじ等で支柱 3 に固定されている。補助支柱 8 も支柱 3 と同様な長さに設定されている。

【0015】

そして、対向する補助支柱 8 には閉塞パネル 9 が所定間隔を開けて上下方向に複数枚取り付けられており、本実施形態では 4 枚の閉塞パネル 9 がそれぞれ間隙を開けて上下方向に配設されている。閉塞パネル 9 間の間隙を開口部 10 という。閉塞パネル 9 は補助支柱 8 の前面側だけでなく裏面側にも同様に配設されている。そして、前面と裏面の閉塞パネル 9 間にはディスプレイ 5 等の配線を挿通させる配線挿通空間 13 が上下方向に形成され、この配線挿通空間 13 は前面と裏面に設けた複数の開口部 10 に連通している。

また、図 7 に示すように、複数形成された開口部 10 の 1 つには、コンセント 11 a や

50

L A Nコネクタ 1 1 b等を配列させたコンセント部材 1 1を備えたコンセントユニット 1 2が取り付けられている。

#### 【0016】

そして、補助支柱 8 には、図 3 及び図 6 に示すように断面コの字状の前面側に係止孔 1 4 と第二スリット 1 5 が形成され、上下方向に複数配列されている。係止孔 1 4 はスリット状であり、コンセントユニット 1 2 を取り付けのものであって例えば補助支柱 8 の外側に配設されている。第二スリット 1 5 は閉塞パネル 9 を取り付ける係止孔を構成するものであり、補助支柱 8 の例えば内側に配設されている。しかも、これら係止孔 1 4 と第二スリット 1 5 は補助支柱 8 の前面と裏面に対称に形成されており、閉塞パネル 9 だけでなく、コンセントユニット 1 2 も前面と裏面に取り付け可能である。

10

また、係止孔 1 4 の間隔は第二スリット 1 5 より短く且つ例えば等間隔であり、コンセントユニット 1 2 は開口部 1 0 だけでなく閉塞パネル 9 の上にも取り付け可能である。一方、第二スリット 1 5 は、閉塞パネル 9 の大きさに応じて例えば四隅に設けた係止爪 9 a を取り付け可能に設置されていればよく(図 6、図 9 参照)、本実施形態では各閉塞パネル 9 の長さの違いに応じて不等間隔に形成されている。

#### 【0017】

また、ディスプレイスタンド 1 において、棚板(天板) 6 は、例えばディスプレイ 5 を操作するためのパソコンやリモコンや DVD プレーヤー等を載置するためのものである。棚板 6 は、一对の補助支柱 8 の係止孔 1 4 に取り付け係止爪部 1 7 a を備えた一对のブラケット 1 7 と、ブラケット 1 7 の上に載置されたテーブル 1 8 とを備えている。

20

#### 【0018】

次にコンセントユニット 1 2 の構成と補助支柱 8 への取り付け構造について図 7 から図 9 により説明する。

コンセントユニット 1 2 は例えば略直方体形状を有しており、上述のようにディスプレイ 5 やパソコン等の配線のプラグや端子等を差し込むコンセント 1 1 a や L A Nコネクタ 1 1 b 等を前面に配列させたコンセント部材 1 1 と、コンセント部材 1 1 を支持して補助支柱 8 の係止孔 1 4 に選択的に取り付けできるブラケット 2 0 とを有している。

ブラケット 2 0 は、コンセント部材 1 1 を支える底部 2 0 a と、コンセント部材 1 1 の両側面 1 1 c に対向する両側部 2 0 b と、各側部 2 0 b から略 L 字形状に曲げられていて先端部を係止孔 1 4 に差し込んで係止させるための係止爪部 2 0 c とを有している。そして、ブラケット 2 0 の底部 2 0 a と側部 2 0 b で支持されたコンセント部材 1 1 は係止爪部 2 0 c によって閉塞パネル 9 や支柱 3 より前方(外側)に突出して支持されている。

30

#### 【0019】

図 9 を中心にコンセント部材 1 1 の両側面 1 1 c とブラケット 2 0 との係合構造の一例について説明すると、コンセント部材 1 1 の各側面 1 1 c には裏面側の一端から前面側に延びて途中で止まる 2 条の保持溝 2 1 が形成され、保持溝 2 1 の間の前面側には首振り部材 2 2 a で弾性が付与された凸部 2 2 が舌片状に突出して形成されている。コンセント部材 1 1 の側面 1 1 c に対向するブラケット 2 0 の側部 2 0 b には貫通孔 2 4 が形成され、この貫通孔 2 4 の上下部には保持溝 2 1 に嵌入して摺動可能な一对の凸片 2 5 が形成され、貫通孔 2 4 の先端縁部 2 4 a には凸部 2 2 が係合可能としている。

40

そのため、ブラケット 2 0 の両側部 2 0 b 間にコンセント部材 1 1 を配設してその裏面側を水平方向に挿入し、保持溝 2 1 に凸片 2 5 を挿入して保持溝 2 1 の突き当たりまでコンセント部材 1 1 を押し込む。すると、コンセント部材 1 1 の凸部 2 2 が両側部 2 0 b に押されて弾性変形した後、貫通孔 2 4 に落ち込み、凸片 2 5 の保持溝 2 1 への突き当たり位置で貫通孔 2 4 の先端縁部 2 4 a に当接して停止する。これによって、コンセント部材 1 1 はブラケット 2 0 の両側部 2 0 b 間に係止保持される。

コンセント部材 1 1 を取り外すには、舌片状の凸部 2 2 をコンセント部材 1 1 の内側に変形させることで貫通孔 2 4 の先端縁部 2 4 a との係合を解除することができる。これによって、コンセント部材 1 1 をブラケット 2 0 から取り外すことができる。

#### 【0020】

50

また、図 9 において、ブラケット 20 の両側部 20 b にそれぞれ設けた係止爪部 20 c は、上下方向に突出する第一係止爪 20 c a と下方に突出する第二係止爪 20 c b とを有している。コンセントユニット 12 における第一係止爪 20 c a の上向き爪を補助支柱 8 の係止孔 14 内に挿入し、第一係止爪 20 c a の上向き爪を係止孔 14 の上縁に係止させつつブラケット 20 を下方に向かって水平位置まで回転させて、第一係止爪 20 c a 全体と第二係止爪 20 c b とをそれぞれ係止孔 14 内に挿入し、第一係止爪 20 c a の下向き爪と第二係止爪 20 c b を係止孔 14 の下縁に係止させる。これによって、コンセントユニット 12 を補助支柱 8 に略直交させて係止保持できる。

なお、コンセントユニット 12 のブラケット 20 の係止爪部 20 c の構成はディスプレイ 5 のブラケット 7 の係止爪部 7 a や棚板 6 のブラケット 17 の係止爪部 17 a にも用いられており、同様に第一スリット 3 a や係止孔 14 に係合させている。

#### 【0021】

本実施形態によるディスプレイスタンド 1 は上述の構成を備えており、次にディスプレイスタンド 1 の使用方法について説明する。

本実施形態によるディスプレイスタンド 1 では、コンセントユニット 12 をディスプレイ 5 の下側で棚板 6 の上側に設置する。その際、図 7 に示すように、コンセントユニット 12 は上下方向に配設された複数の閉塞パネル 9 の間の複数の開口部 10 のいずれかを選択して設置できる。また、コンセントユニット 12 は開口部 10 だけでなく閉塞パネル 9 の上面に設置してもよい。

コンセントユニット 12 の設置に際し、係止爪部 20 c の第一係止爪 20 c a の上向き爪を補助支柱 8 の係止孔 14 内に挿入し、第一係止爪 20 c a の上向き爪を係止孔 14 の上縁に係止させつつブラケット 20 を下方に向かって水平位置まで回転させて、第一係止爪 20 c a 全体と第二係止爪 20 c b とをそれぞれ係止孔 14 内に挿入し、第一係止爪 20 c a の下向き爪と第二係止爪 20 c b を係止孔 14 の下縁に係止させることができる。

#### 【0022】

そして、ディスプレイ 5 の配線は表裏面の閉塞パネル 9 間の配線挿通空間 13 内を通して、コンセントユニット 12 を設置した開口部 10 の上方の開口部 10 から前面に配線を出してコンセント部材 11 のコンセント 11 a や LAN コネクタ 11 b 等に接続できる。その際、コンセントユニット 12 は閉塞パネル 9 の前方に突出しているため、ディスプレイ 5 の下側に設置されていてもディスプレイ 5 が邪魔にならず、容易に差し込みできる。

また、棚板 6 に DVD プレーヤーや PC 等を設置した場合でも、配線をその上方に位置するコンセントユニット 12 のコンセント部材 11 のコンセント 11 a や LAN コネクタ 11 b 等に容易に接続できる。この状態で、作業者はディスプレイ 5 の表示画像等を説明する。

#### 【0023】

また、ディスプレイスタンド 1 をオフィスや公共施設等の執務室や会議室等で使用する場合、棚板 6 とは別にテーブル等を近傍に引き寄せて物品や資料等を載置して使用する場合がある。このような場合、棚板 6 やコンセントユニット 12 を別テーブルの上側に位置させて使用することが好ましい。その場合、棚板 6 の使用に便利であり、テーブルに電子機器等を載置してディスプレイ 5 等と関連して使用する場合でも、コンセントユニット 12 に電子機器の配線を接続することができて便利である。

#### 【0024】

上述のように、本実施形態によるディスプレイスタンド 1 によれば、ディスプレイ 5 より下方位置に配設したコンセントユニット 12 を、支柱 3 や閉塞パネル 9 等の什器本体の前面から前方に突出させて配設したため、コンセントユニット 12 のコンセント 11 a や LAN コネクタ 11 b 等に配線のソケットや LAN 配線の端子を装着する際に上部のディスプレイ 5 が影になったり邪魔になったりせず、装着時の作業性が良好である。しかも、配線のプラグや端子等をコンセント 11 a や LAN コネクタ 11 b 等の差込口から抜く際に、コンセント部材 11 やコンセントユニット 12 が外れることはない。

また、同様に棚板 6 の上側や下側にコンセントユニット 12 を配設した場合でも、コン

セントユニット 12 が前方に突出しているために電子機器の配線のプラグや LAN 端子等の装着が容易である。

#### 【0025】

しかも、ディスプレイスタンド 1 の表裏面に閉塞パネル 9 間の配線挿通空間 13 に連通する開口部 10 を設けたため、ディスプレイ 5 や棚板 6 上の電子機器の配線を前方から開口部 10 を通して配線挿通空間 13 内に収納して延設することができて、配線の敷設作業が容易である上に、敷設後の外観上の見栄えが良好である。

また、補助支柱 8 に所定間隔で上下方向に複数の係止孔 14 を設けて、コンセントユニット 12 の第一係止爪 20c a の上向き爪を補助支柱 8 の係止孔 14 内に挿入し、第一係止爪 20c a の上向き爪を係止孔 14 の上縁に係止させつつブラケット 20 を下方に向かって水平位置まで回転させて、第一係止爪 20c a 全体と第二係止爪 20c b とをそれぞれ係止孔 14 内に挿入し、第一係止爪 20c a の下向き爪と第二係止爪 20c b を係止孔 14 の下縁に係止させることができる。そのため、簡単な構成でありながら、確実にコンセントユニット 12 を補助支柱 8 の複数の係止孔 14 のいずれかに選択的に取り付けることができる。

また、コンセントユニット 12 は支柱 3 と閉塞パネル 9 の間に係止爪部 20c を挿入して係止孔 14 に取り付ける構成であるため、外観上、コンセントユニット 12 のブラケット 20 の係止爪部 20c の各係止爪 20c a, 20c b が観察者から目視し難く、この点でもディスプレイスタンド 1 の見栄えが良い。

#### 【0026】

また、開口部 10 はディスプレイスタンド 1 の上下方向に間隔を開けて複数配設したため、任意の開口部 10 にコンセントユニット 12 を装着することができる。この場合、いずれかの開口部 10 にコンセントユニット 12 を装着すれば、その配線を開口部 10 を通して配線挿通空間 13 内に延ばして収納できて外部から見えにくいので外観上の見栄えが良い。

また、コンセントユニット 12 は開口部 10 に限らず、閉塞パネル 9 上に重なる任意の高さ位置でも係止孔 14 に取り付けることができ、コンセントユニット 12 の設置高さの変更を容易に行える。

#### 【0027】

なお、本発明は上述の実施形態によるディスプレイスタンド 1 に限定されることはなく、本発明の要旨を変更しない範囲で適宜の変更や置換等が可能であり、これらはいずれも本発明に含まれる。以下に、本発明の変形例等について説明するが、上述した実施形態と同一または同様な部品や部材等には同一の符号を用いて説明を行う。

#### 【0028】

次に、本発明の実施形態のディスプレイスタンド 1 の変形例について図 10 及び図 11 により説明する。

図 10 は第一変形例によるコンセントユニット 12 を示すものである。このコンセントユニット 12 では、補助支柱 8 の係止孔 14 に取り付けられたブラケット 20 において、対向する側部 20b とコンセント部材 11 の側面 11c とを連結する回転軸 28 を着脱可能に設け、これによってコンセント部材 11 は回転軸 28 を中心に角度  $\theta$  の範囲で上下に回動して傾斜保持可能とされている。なお、ブラケット 20 に対するコンセント部材 11 の俯仰角を調整する機構は他の公知の機構を適宜採用できる。

#### 【0029】

そして、回転軸 28 の前方において、対向する側部 20b とコンセント部材 11 の側面 11c との一方、例えば側面 11c に凸部 33 を設け、他方の対向する側部 20b に凸部 33 を回動可能に支持するガイド溝 32 を所定角度  $\theta$  の範囲に設けた。そして、凸部 33 とガイド溝 32 を互いに押圧することで、コンセント部材 11 を任意の角度位置で係止させる。なお、ガイド溝 32 に凸部 33 を適宜位置で係止させる凹部を設けてもよい。

これによって、本第一変形例によるコンセントユニット 12 は、ブラケット 20 に対してコンセント部材 11 をガイド溝 32 の範囲内で任意の角度の仰角と伏角と水平角で固定

できる。

#### 【0030】

本第一変形例によるコンセントユニット12によれば、コンセントユニット12を支柱3や閉塞パネル9の前方に突出させるだけでなく、コンセント部材11に上向きの仰角を設定すれば、ディスプレイ5の配線のプラグを一層容易にコンセント部材11に装着できる。また、棚板6の上側にコンセントユニット12を設置した場合、コンセント部材11を下向きに伏せ角を設定すれば、棚板6に設置した電子機器の配線のプラグを一層容易にコンセント部材11に装着できる。

#### 【0031】

また、図11は第二変形例によるコンセントユニット12を示すものである。

このコンセントユニット12では、ブラケット20において、対向する側部20bとコンセント部材11の側面11cとの一方に水平方向に延びるガイド溝35を設け、他方にはガイド溝35に沿って進退可能な凸部36を嵌合させて、ガイド溝35に沿って摺動可能とし、且つガイド溝35の長手方向の両端の位置または任意の位置で停止するように設定した。これによって、ブラケット20に対してコンセント部材11を水平方向に進退させて適宜の突出位置で保持することができる。なお、凸部36を保持すべきガイド溝35の位置に凹部を形成させて係止させるようにしてもよい。

また、上述した各変形例において、ブラケット20に対するコンセント部材11の揺動位置や進退位置を選択または調整する機構は他の公知の機構を適宜採用できる。

#### 【0032】

上述した実施形態では、コンセント部材11をブラケット20に取り付けた状態で、支柱3や閉塞パネル9の前方に突出させる構成を得られるが、本第二変形例によるコンセントユニット12によれば、コンセント部材11を更にその前方に突出させることができるため、ディスプレイ5や棚板6上の電子機器の突出位置に応じて、配線のプラグやLANコネクタ等を一層接続しやすくなる。

#### 【0033】

また、他の変形例としてコンセントユニット12を補助支柱8に沿って上下方向に摺動可能に設置してもよく、この場合には補助支柱8には係止孔14に代えてガイド溝を設け、コンセントユニット12のブラケット20にガイド溝に沿って摺動可能なスライド部材と、適宜位置でブラケット20を補助支柱8に固定する押圧ボルト等を設ければよい。

#### 【0034】

なお、本実施形態によるディスプレイスタンド1では、各一对の支柱3と補助支柱8とで支持部材を構成するものとし、ディスプレイ5を支柱3の第一スリット3aに取り付け、閉塞パネル9とコンセントユニット12を補助支柱の係止孔14及び第二スリット15を取り付けるようにした。

しかし、支持部材は、支柱3と補助支柱8の一方の部材で構成してもよく、この場合、支柱3または補助支柱8に各第一スリット3a、係止孔14、第二スリット15を上下方向に配列して形成し、ディスプレイ5、コンセントユニット12、閉塞パネル9をそれぞれ取り付けるようにしてもよい。

#### 【0035】

また、開口部10を形成する閉塞パネル9の数は4枚に限らず、適宜の複数枚を設置でき、上下の閉塞パネル9の間には配線挿通空間13に連通する開口部10を必要に応じて適宜設置すればよい。また、棚板6は必ずしも取り付ける必要はない。

また、本発明において、本実施形態や変形例によるディスプレイスタンド1はディスプレイ支持什器を構成する。脚体2は基部を構成し、閉塞パネル9はパネル体を構成する。また、コンセントユニット12は、コンセント部材11とブラケット20を設けた構成に代えて、コンセント部材11の裏面または側面11cに係止爪部20cを固定して構成してもよい。

また、係止爪部20cは必ずしもL字状に形成する必要はなく、ストレート板等、適宜の形状を採用できる。

10

20

30

40

50



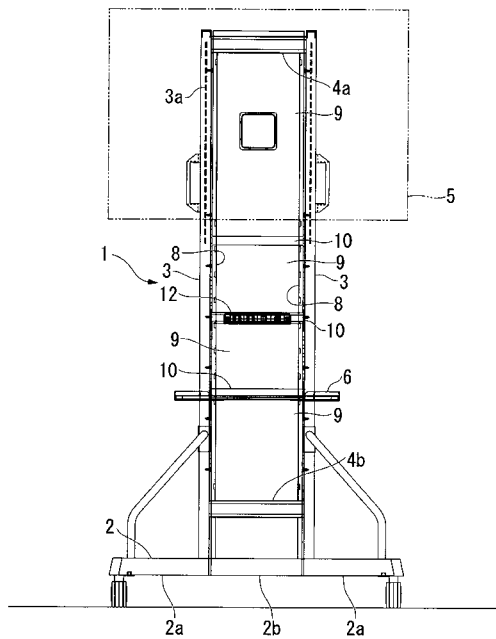
## 【符号の説明】

## 【0036】

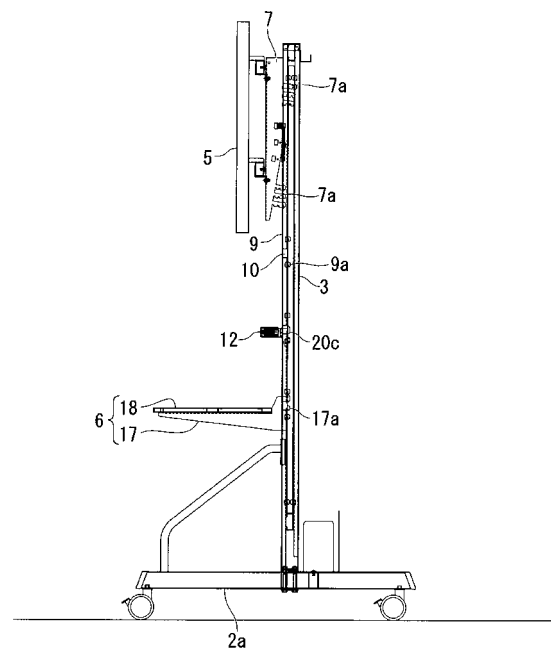
- 1 ディスプレイスタンド
- 2 脚体
- 3 支柱
- 3 a 第一スリット
- 5 ディスプレイ
- 6 棚板
- 8 補助支柱
- 9 閉塞パネル
- 10 開口部
- 11 コンセント部材
- 12 コンセントユニット
- 14 係止孔
- 15 第二スリット
- 20 ブラケット
- 20 c 係止爪部
- 20 c a 第一係止爪
- 20 c b 第二係止爪

10

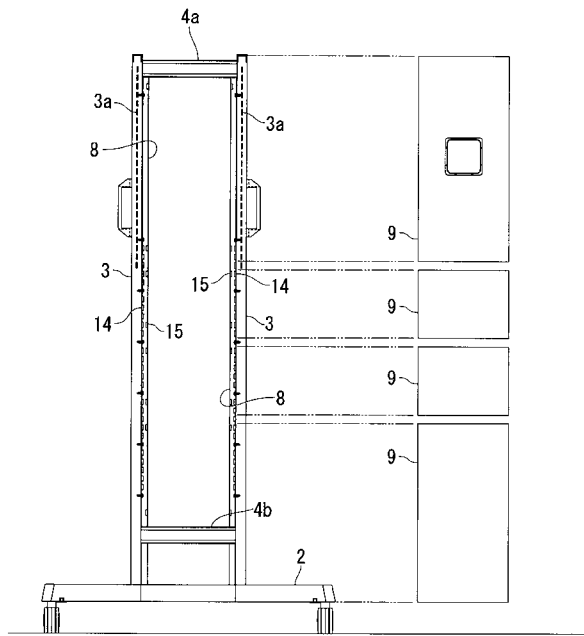
【図 1】



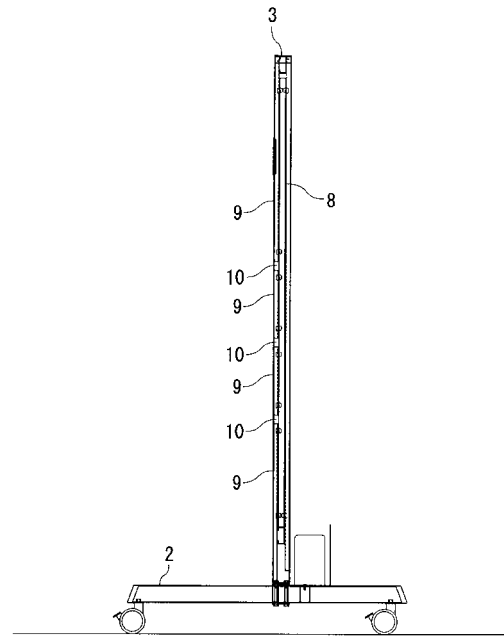
【図 2】



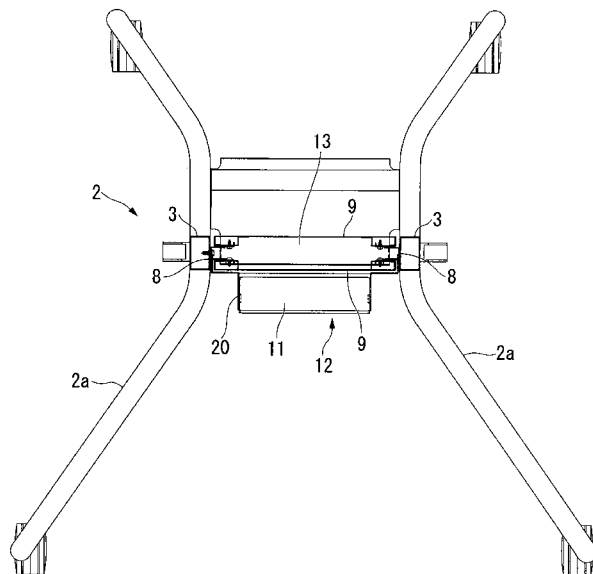
【図 3】



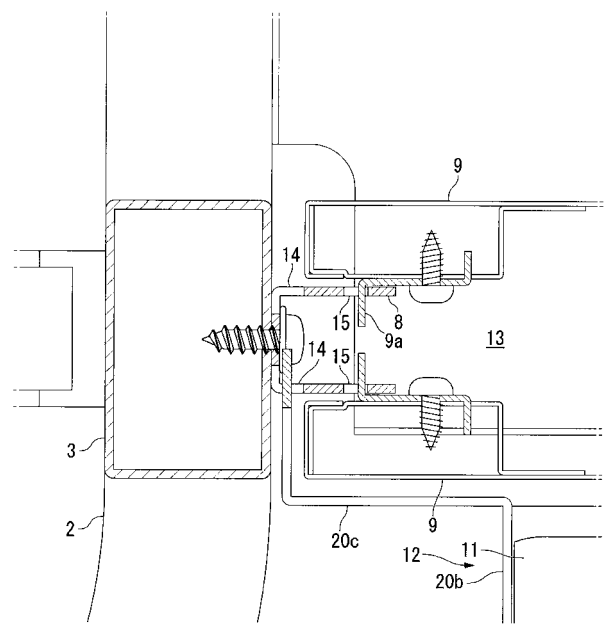
【図 4】



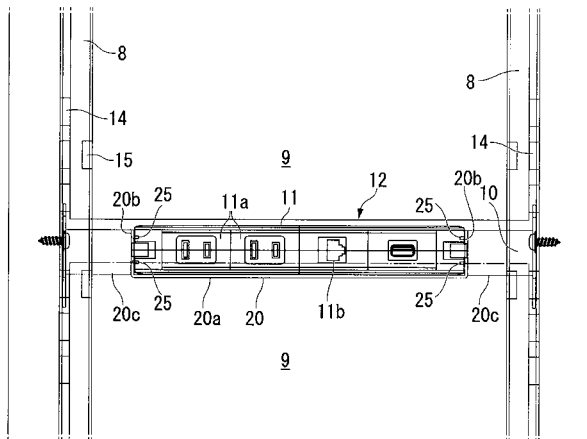
【図 5】



【図 6】

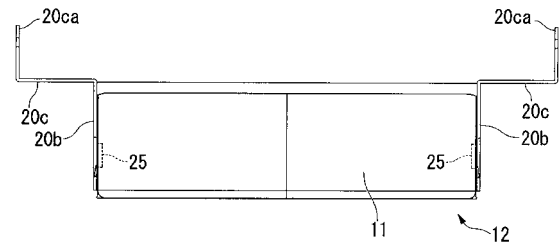


【図 7】

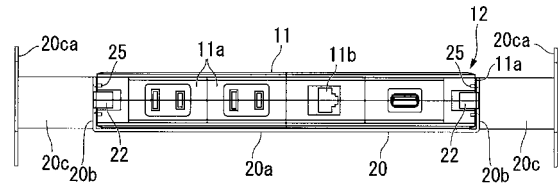


【図 8】

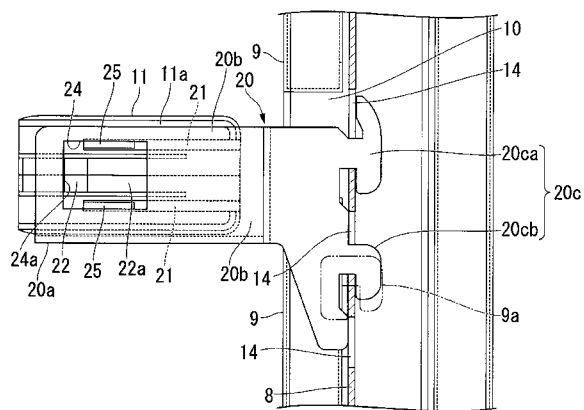
(a)



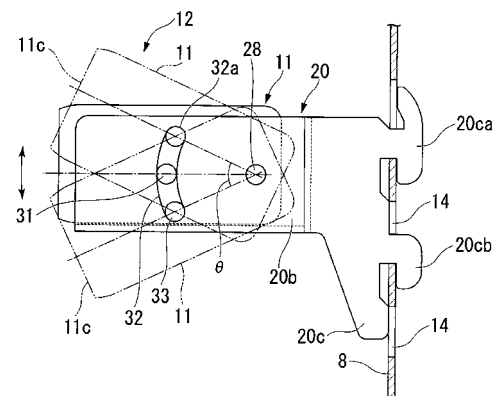
(b)



【図 9】



【図 10】



【図 11】

